

規準 1: 本時の目標を、民主主義社会の形成者育成の視点から設定できている。

S : A に加えて、民主主義社会の形成者の育成（市民性育成）の視点から、自らの目標設定の理由を正当化できている。

A : B に加えて、①科学的思考力（実証主義に基づく説明）の育成または②社会的判断力（構築主義に基づく議論）の育成の立場を意識して、本時の目標を記述できている。

B : 学習の対象と視点、育てたい知識・能力等（……を……を事例に……して、……を形成できる）を明示して、本時の目標を観点別に記述できている。

C : B ができていない。

規準 2: 目標達成にふさわしい教育内容を、講義で学んだ理論・概念を活用して計画できている。

S : A に加えて、独自に専門書や資料等を収集し、解釈して、独自の教育内容を構想できている。

A : B に加えて、①知識の構造（階層性）または②トゥールミンモデル（論争性）を活用して、本時の教育内容を構造化して示している。

B : MQ に対する MA を、単語ではなく命題で、単一の命題ではなく複数の命題で、記述できている。

C : B ができていない。

規準 3 : 目標達成を支援する教材を、適切に選択し、配列できている。

S : A に加えて、国・内外の社会で注目されている課題や、子どもの生活に即した事象を優先的に教材化している。

A : B に加えて、①学問の説の探究または②子どもの説の探究の方法論を活用して、子どもの常識知を揺さぶったり（視点の転換）教材、子どもの多様な見方を引き出したりする（視点の対決）教材を選定できている。

B : 性質の異なる複数の資料を関連づけて読み取らせたり、特定の資料を重点的に読み取らせて、子どもの学習を支援している。

C : B ができていない。

規準 4 : 目標達成のための問いや活動を、導入→展開→終結の流れに沿って表現できている

S : A に加えて、授業の流れが単調にならないように、思考・判断のヤマ場を設けたり、表現の機会を設けたりしている。

A : B に加えて、①学習のレリバンスや②真正の学びの諸理論を意識して、子どもの問題意識や現実社会の文脈に基づいた学習課題を設定できている。

B : 問いや活動に軽重（MQ/Q/SQ など）を付けて、それらを 3~5 つ程度の分節（学習段階）に分けて提示できている。

C : B ができていない。